
遊戯王 ～転生せし者の歩く道～ リメイク版

ユタ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

遊戯王 〈転生せし者の歩く道〉 リメイク版

【Nコード】

N2997Y

【作者名】

ユタ

【あらすじ】

天使のミスで死んでしまった黒羽恭夜は遊戯王の世界に転生する。だがこの世界は普通の遊戯王の世界ではなくて……。遊戯王〈転生せし者の歩く道〉を最初から構成し直したものです。オリカは構成前より頻度は高くなく、チートではなくしております。切り札の効果も一部変更しております

プロローグ

SIDE???

ここは……どこだ？

俺が目を覚ますと回りが真っ白な部屋にいた

確か俺は……ああ、そうだ。居眠りトラックにひかれたんだった。
てことはここは死後の世界か何か？

「あなたが黒羽恭夜さんですか？」

俺の後ろから声が聞こえてき、そちらを向くとそこには白色の羽
をはやした……女性がいた

「あんたは？」

「わ、私はサキといいます。それで、あなたが黒羽恭夜さんですか
？」

「ああ、そうだが、俺になんの用だ？」

「えっと……すみませんでした!!」

羽が生えた女性……サキがいきなり土下座して謝ってきた。はい
？俺何かしたのか!？

「なんで謝るんだよ！」

「それはですね……」

俺はなんで謝ってきたのか、その理由をサキから聴いた。

「そうか……」

「本当にすみません」

「いや、いいさ。過ぎたことだしな」

「えっと……恭夜さんは私を責めないんですか？」

何言ってるんだか……

「責めたって何も起こらないからな」

唯つの心配はあいつがどうなるかだな……

「そうですか……」

「それで、俺はこれからどうなるんだ？」

「はい、転生していただくので、転生したい世界を行ってください」

転生？……ああ、二次創作でよくあるテンプレなあれか……そうだな

「遊戯王の世界で、後できれば俺の生前のデッキも一緒に頼む」

「わかりました。恭夜さんを転生させる世界はいくつもある遊戯王の並行世界です。極度の原作崩壊さえなければ好きに過ごしていただいて構いません。ですがシグナーの龍達は無理ですのぞ」

「ああ、わかった」

やっぱ無理か……だがシンクロとエクシーズが無理とは言わなかった……ってことはシンクロとエクシーズは極度の原作崩壊ではないのか？

「それでは……お元気で」

「ああ」

サキにそれだけ言い、俺の意識は無くなった

第一話 出会い（前書き）

後書きでオリカの説明、解説、修正前との違い（修正前に出ているものに限り）を説明します

第一話 出会い

SIDE 恭夜

んん……ここは……家？

俺が目を覚ますとソファの上で寝ていた。あ、手紙があるな。

『これを読んでいるということは無事につきましたね

この手紙の横に置いてあるのが恭夜さんのデッキと私から選別のカードです』

これか……ってサキ……お前が置いていったカードってオリカかよ……しかも俺の次元サイキック用と……ヴァイロン？なんでだ？

『それと恭夜さんのもう一つのデッキについては少し送るのに時間がかかります』

そうか……あのデッキも今欲しかったが……送られてくるならその時を待つとするか

『そして恭夜さんに一つ頼みたいことがあります。

どうやら恭夜さんが死んでからあの空間に呼び出す際にちよつと不手際がありました……恭夜さんの転生した世界に一人転移してしまっただけです』

……おいおい、サキはドジっ娘か？ドジっ娘って言葉で済ませる範囲じゃないことは確定してるが……

『その人の保護をお願いしたいのです。詳細は次の紙に書いてあり

ますので』

頼まれたものは仕方ないな……

『それと恭夜さんが今いる家はお好きに使って構いません。暫くの生活費用もありますので。

では、これにて』

俺は、そこまで読むと手紙を置き、デッキに触れる……その瞬間、デッキが光だした

「な、なんだ!？」

暫くしたらその光が収まった。そして俺が目を開けるとそこには……髪の色が蒼で腰位まである少女がいた……はい？

7

『あ、やっとでられた』

「あゝ……お前は誰だ？」

『私？私は『メンタル・デーモン・ドラゴン』のシオンだよ!よろしくね!』

『メンタル・デーモン・ドラゴン』?聞いたこと無いな……まさか俺は自分のデッキのエクストラデッキを見る。そこにはさつき少女……シオンが言っていたカードがあった

「そうか、お前はカードの精霊……ってことでいいか？」

『うん!そうだよ。よろしくね!』

「ああ、俺は黒羽恭夜だ。よろしくな」

『うん!』

見た目が少女で精神年齢も歳相応か……結構無邪気だな

「とりあえず出かけるが、シオンも付いてくるか？」
『うん！』

ほんと、元気だな

俺は二枚目の紙を見ながら玄関のドアを開ける

S I D E 恭夜 O U T

恭夜がシオンと一緒にサキから頼まれた人を探し始めて一時間が過ぎた

「やっぱ中々見つからないなあ」
『だね……あ！恭夜。あそこ！』
「ん？」

恭夜はシオンが指さした方を見ると

「あいつは……」

銀髪を腰まで伸ばした大体恭夜と同じ位の歳の女の子がナンパ？
されているところだった
その容姿は手紙に同封されていた紙に書かれていた容姿と同じで
写真もあったことから間違えることがなかった

『どうするの？』

「はぁ……面倒だが。助けるしかないだろうな」
『うん！』

恭夜とシオンはその女の子の元に歩いていった

SIDE??? OUT

「ねえ、俺たちとどっか行かない？」

……むかつく

私は紅葉空……気がいたらこの辺にいた……

『空あ……どうするのお』

そして今私に話しかけてきたのがいつの間にか私のデッキに入っていた元の世界にいた時には情報すら出ていなかったカード……『ヴァイロン・カオス・ドラゴン』のカオス……多分オリカ。そして私をナンパ？している男達の腕にはデュエルディスクがあるから……遊戯王の世界だと思う

「ち……下手にでてりゃ無視しやがって……こっちk「はいはい、そこまでにしときな」な、なんだてめえ!？」

男の一人が私に伸ばしていた手を新しく来た男が掴んだ……後ろにいるのは精霊？

「俺か？単なるお人よしだ」

そうだよね……普通に考えたら

「はん、怪我したくなければそこをどきな、坊主」

「……それじゃあ、デュエルで決着をつけようぜ。その左腕のは飾

りじゃないんだろ？」

……そこでそれを持ってくるんだ……

「は、いいぜ！」

そう相手の男が言うと、そばにいたもう一人がデュエルディスクを起動させた……なら私も

私もデュエルディスクを起動させてお人好しの男の隣に立つ

「ん？お前はやらなくていいんだぞ」

「空……」

「？」

「紅葉空……私の名前」

「そうか、俺は黒羽恭夜だ」

黒羽……恭夜……

「空。そっちは任せるぞ」

「恭夜も……」

私はなんでここまでこの人……恭夜の事を信じれるかはわからない……

「ごちゃごちゃうるせえぞ！」

「わりいわりい、さあはじめようぜ！」

「」「デュエル……」」「」」「」

恭夜VS男A

空VS男B

SIDE空OUT

SIDE恭夜OUT

さて……ゆっくりデッキを見る時間がなかったから何が入っているかは前の世界で最後にいじった時のを覚えているだけだが……

「俺から行かせてもらうか、ドロー！」

手札は……【静寂のサイコウィッチ】【サイ・ガール】二枚、【ブレイン・ハザード】【サイキック・ドロー】【マックス・テレポーター】か……って【サイキック・ドロー】？オリカか、効果は……まあ、チートじゃない方だが……【次元サイキック】にこれはデメリットなのか疑問に思える。ま、とりあえずわ

「……俺はモンスターとカードを一枚ずつセットしてターンエンドだ！」

恭夜

LP4000

場 セット

伏せ 一枚

手札 四枚

やってみないことにはなんにもならんな

「俺のターン！俺の【ゴブリン突撃部隊】を召喚！」

【ゴブリン突撃部隊】……攻撃力は高いが攻撃後守備になりその

守備力は0……【スキドレ】又は【最終突撃司令】と合わせるならまだ使えないことのないカードだな

「バトル！【突撃部隊】でセットモンスターを攻撃！」

【突撃部隊】は俺のほうに迫り、その手に持った混紡でセットモンスターを破壊していった。うお、迫力あるなあ

「なら、破壊された【静寂のサイコウイッチ】の効果。デッキから攻撃力2000以下のサイキック族モンスターをゲームから除外する。俺は【メンタル・シーカー】を除外する」

【サイ・ガール】は二枚しか入れてないし二枚とも手札だしなあ……あ、サイキック族使ったが……いいか、どうせシンクロとエクシーズも使うし。

「……カードを二枚伏せてターンエンドだ！」

男A

LP4000

場 突撃部隊

伏せ 二枚

手札 三枚

このターンに攻撃してきたから……あれの一枚は【最終突撃司令】の確立が高いな。

「俺のターン！」

俺がカードをドローすると、俺のフィールドに渦が発生し、その

中から機械的な服を着たモンスター【メンタルシーカー】が姿を表した

「なんでモンスターが!？」

「【静寂のサイコウィッチ】の効果。除外したモンスターを次の自分スタンバイフェイズにフィールド特殊召喚する……そして」

【メンタルシーカー】が腰辺りにしている赤色のコードを外し、相手のデュエルディスクにつなげると、デッキトップからカードが三枚出てくる

「【メンタルシーカー】の効果。除外されたこのカードが特殊召喚されたとき、相手デッキトップ三枚を確認して一枚を選択してゲームから除外する」

「なに!？」

確認できるカードは……【最終突撃司令】 【スキルドレイン】 【スピアドラゴン】 …… 【スキドレビート】 だな。そしてこの場合は……

「【スキルドレイン】を除外だ」
「ち……」

男は【スキルドレイン】のカードをポケットにしまい、残り二枚をデッキに戻してシャッフルしてデュエルディスクにセットした
【最終突撃司令】はあんまり怖くないが【スキルドレイン】を使われると厄介だからな

「俺は【メンタルシーカー】をリ……生贄にして【マックステレポーター】を召喚!」

危ない……この世界はGX……生贄と生贄召喚だった。さて、それは置いとくとして……今回はどいつを出すか……まあ、【スキドレビート】なら手札が予想付けやすいからあっちを出すか

「【マックステレポーター】の効果！ライフを2000支払うことでデッキからレベル3のサイキック族モンスター二体を特殊召喚する！」

「ライフを2000も支払うだど！？」

確かにライフ4000制のこの世界だと2000は痛手だ……4000から【神の宣告】を使うのと一緒にだからな。だが、こいつの効果は強力だからな

恭夜LP4000↓2000

「こい！【メンタルシーカー】、【サイコウィッチ】！」

【マックステレポーター】が地面に触れると、二体のモンスターが姿を表した

「さあ、行くぜ！レベル3の【サイコウィッチ】にレベル3の【メンタルシーカー】をチューニング！」

【メンタルシーカー】が三つの輪になり、【サイコウィッチ】を包み込む、そして【サイコウィッチ】を三つの星となり、その中心に光の柱が表れ

「シンクロ召喚……【サイコ・デビル】！」

そこから現れたのは漆黒の翼にごつい体付きのモンスターだ

「な、なんだ！シンクロ召喚ってなんだア！？」

ああ、混乱してるな……ま、説明してもいいが面倒

「面倒だから説明はしない……続きだ。【サイコ・デビル】のモンスター効果！相手の手札を一枚選択。選択したカードの種類を選択してあっていたら相手エンドフェイズまで攻撃力を1000ポイントアップする！俺は真ん中を選択！モンスターカードだ！」

男は三枚ある手札の真ん中のカードを俺に見せる。カードは【ゴブリンエリート部隊】だった。

「成功だ」

【サイコ・デビル】が雄叫びを上げると、翼が一回りでかなくなった

サイコ・デビル 攻2400↓3400

これで一応、あれば【最終突撃司令】でも大ダメージを与えられるが……もう一枚が気がかりだ。だけどここで責めないと、危ない。
【スキドレビット】の切り札は【神獣王バルバロス】だ。この世界でのカードはレア中のレアだから持っているかわからんが……持っている過程してデュエルしたほうが絶対にいいな

「バトル！【サイコ・デビル】で【突撃部隊】を攻撃！」

「させるかぁ！永続トラップ【最終突撃司令】を発動！さらにチェーンして【収縮】を発動だぁ！」

【収縮】だと！？まずい！

サイコ・デビル 攻3400↓1200↓2200

「ちい！手札の【タイム・エスケーパー】の効果発動！こいつを手札から墓地に送って自分サイキック族を次の自分ターンスタンバイフェイズまで除外する！」

【サイコ・デビル】は突如現れた渦に吸い込まれ、フィールドから消えた

「そして永続トラップ【ブレインハザード】を発動！除外されているサイキック族一体を特殊召喚する！戻ってこい！【サイコ・デビル】！」

再び渦が表れ、そこから出てくる【サイコ・デビル】。翼が元の大きさになっていた。危なかった……これがダメステだったら【タイム・エスケーパー】の効果が使えなかった

「【サイコ・デビル】で【突撃部隊】を！【マックステレポーター】でダイレクトアタックだ！」

「うおおおお」

男ALP4000↓1800

「ターンエンドだ」

恭夜LP2000

場 サイコ・デビル マックステレポーター

伏せ なし ブレインハザード

手札 三枚

危なかった……このドロで【タイム・エスケーパー】を引いて無かったら返しのターンで【エリート部隊】を召喚され【突撃部隊】で【マックス・テレポーター】がやられ、【エリート部隊】のダイレクトアタックで終わっていた……やっぱライフ4000で【マックス・テレポーター】は使いづらいな……使うとしても【マジカル・アンドロイド】や【メンタル・スフィア・デーモン】などでライフを回復してからだな

「俺のターン！【ゴブリン突撃部隊】を召喚！」

男が召喚したのは混紡を持ったゴブリンの集団のモンスターだった……ち、ここでそいつか……

「【ゴブリン突撃部隊】で【マックス・テレポーター】を攻撃い！」
「く……」

恭夜LP2000↓1800

「さらに【天使の施し】を発動！カードを三枚伏せてターンエンドだあ！」

男A

LP1800

場 突撃部隊

伏せ 三枚 最終突撃司令

手札 ゼロ

手札をガン伏せ……あの中にはブラフも含まれてるだろう……だ

が、【サイコ・デビル】の効果が使えず、攻撃力が2400……一応勝てるがこの後のことを考えると……使ってみるか

「俺のターン！俺は魔法カード【サイキック・ドロ―】を発動！自分フィールド上にサイキック族モンスターが存在する時、手札のサイキック族モンスターをゲームから除外することでデッキからカードを二枚ドロ―する！このカードを発動したターン、俺はバトルフェイズを行えないがな。【サイ・ガール】を除外して二枚ドロ―！」

よし。これならまだなんとかなるな

「俺は永続魔法【フューチャー・グロウ】を発動！基地の【マックス・テレポーター】を除外してそのレベル×200ポイント……1200ポイントを俺の場のサイキック族モンスターに加える！」

サイコ・デビル 攻2400↓3600

「攻撃力3600だとお！？」

ま、このターンバトルフェイズを行えないのがネックなんだがな

「ターンエンドだ」

恭夜LP2000

場 サイコ・デビル

伏せ フューチャー・グロウ ブレインハザード

手札 三枚

「俺のターン！【マジックプランター】を発動！」

やっぱブラフがあったか

「【最終突撃司令】を墓地に送って二枚ドロー！【可変機獣ガンナードラゴン】を守備表示で召喚！【突撃部隊】を守備に変えてターンエンド！」

男A

LP1800

場 ガンナードラゴン 突撃部隊

伏せ 二枚

手札 一枚

守りに入ったのか？まあ、いいか。どっちでも

「俺のターン！俺は【寡黙なるサイコプリースト】を召喚！」

白い服に杖を持った老人？ま。いいか。とりあえずこいつの効果は強力だからな

「【サイコプリースト】の効果発動！手札を一枚墓地に送り墓地のサイキック族一体を除外する。【メンタルシーカー】を除外。バトル！【サイコ・デビル】で【ガンナードラゴン】を攻撃！」

【サイコ・デビル】は【ガンナードラゴン】の首をくいち切り破壊した。うお……すごいことするな

「ターンエンド」

恭夜LP2000

場 サイコ・デビル サイコプリースト

伏せ　フューチャー・グロウ　ブレインハザード
手札　二枚

「俺のターン！ち……何もできねえ。ターンエンドだ」

男A

LP1800

場　突撃部隊

伏せ　二枚

手札　二枚

万事休すって奴か？

「俺のターン！さて……お前の出番だぞ、シオン」

『やっど？遅いよお』

シオンはどうやらずっとでたがってたようだ、現に今、俺の背中をぽかぽかと効果音がつきそうな勢いで殴ってきてるし

「すまんすまん。さて、行くぞ」

『うん！』

「俺はチューナーモンスター【サイ・ガール】を召喚！レベル3の【サイコプリースト】にレベル2の【サイ・ガール】をチューニング！来い！【マジカル・アンドロイド】！そして【サイコプリースト】の効果で除外されていた【メンタルシーカー】を特殊召喚！」

【メンタルシーカー】は再び男のデッキの上から三枚を捲る。これって強制なんだよなあ……と愚痴はここまでにしとくか……カードは【ゴブリン突撃部隊】【神獣王バルバロス】【最終突撃司令】。うお、【バルバロス】持ってたのか。危なすぎだろ……

「【バルバロス】を選択」
「……………」

男は無言で【バルバロス】を取り出しポケットにしまう

「もう一度行くぞ！レベル5の【マジカル・アンドロイド】にレベル3の【メンタルシーカー】をチューニング！シンクロ召喚！【メンタル・デーモン・ドラゴン】！」
『やっとの出番だぁ！』

シオンはそう言うのと咆哮を上げる。やる気満々だな……

「バトル！【サイコ・デビル】で【突撃部隊】を攻撃！【メンタル・デーモン・ドラゴン】で止めだ！」
「くそおおお！！」

男ALP1800↓0

ふう……こっちは終わったと、空の方は……

「【ヴァイロン・カオス・ドラゴン】……止め」
「うわああああ」

男BLP0

丁度終わったところか

「お、覚えてろよおお！！」

……最後に何か言っていたが聞かなかったことにするか。てか古すぎるぞ

「お疲れ……」

「ん？ ああ、お疲れ」

「ねえ……聞きたいことがある……」

「わかってる。とりあえず家までくるか？」

正直、ここでもう誘うのはあれだが……ここでもこれ以外の選択肢があまりないんだよな。金持ってきてないし……

「うん……」

空の了承も得たことで俺は空を連れて、家に戻った

第一話 出会い（後書き）

ユ…さあさあ、やってきました後書きコーナーあ！

空…うるさい……

恭…もう少し静かにしてくれ

ユ…つれないなあ……さて、今回の話を読んでくださり、ありがとうございます。今作では後書きにて本編に登場したオリカの解説をしていきたいと思います

空………修正前にはなかった

ユ…小説途中に書くよりこっちの方が後でまとめやすい

恭…そういう理由か

ユ…そ、んでは今日は恭夜しかデュエルしてないから恭夜のオリカ説明だ！まず最初はこれ！

サイキック・ドロー

通常魔法（制限）

このカードは自分フィールド上にサイキック族モンスターが存在する
るとき発動できる

手札のサイキック族モンスターをゲームから除外することでデッキ
からカードを二枚ドローする

このカードを発動したターン、自分はバトルフェイズを行えない

恭…発動条件があり、発動したターン、バトルフェイズを行えないが、コストとしてサイキック一体を除外することが可能だ。これで上級サイキックを除外して【ブレインハザード】で特殊召喚すればいつきに大打撃を与えることが出来るぞ

ユ…修正前との違いは制限の追加とコストを墓地に送るではなく除外にさせてもらいました、さて次は恭夜の切り札の……【メンタル・デーモン・ドラゴン】だ！

メンタル・デーモン・ドラゴン

星8／闇／ドラゴン族／攻3000／守2500／シンクロ／効果チューナー＋チューナー以外のモンスター一体以上

このカードが戦闘で相手モンスターを戦闘で破壊したとき、そのモンスターの攻撃力分自分ライフを回復する

一ターンに一度、墓地に存在するモンスター一体をゲームから除外することでこのターン、このカードは一度だけ戦闘及び効果では破壊されない

この効果は自分及び相手ターンメインフェイズ1でのみ発動できるこのカードの効果以外で自分モンスターがゲームから除外された場合、ライフを1000支払うことでそのモンスターを効果を無効にして守備表示で特殊召喚する

空…今回……効果は使っていないけど、戦闘破壊したモンスターの攻撃力分のライフ回復効果を持っているよ……

恭…後はメイン1で墓地のモンスター一体を除外して一度だけの破壊耐性の付与だ。これは相手ターンでも発動出来る

ユ…最後は自身の効果以外でモンスターがゲームから除外された場合にライフを1000支払うことで守備で特殊召喚出来る効果だ。

修正前との違いは耐性付与効果の発動仕様とモンスター特殊召喚効果です

恭…今日出たのはこの二枚だけか？

空…そうだよ……

ユ…こんな感じで説明していきます。新規オリカは一話に二人2～3枚前後。既に登場したオリカについては出していきます。

第二話 恭夜VS空（前書き）

指摘を受け、ヴァイロン・カオスの効果に制約を追加しました
これなら【ヴァイロン】系の装備魔法の効果が発動しなければ……

第二話 恭夜VS空

恭夜と空が出会い、二人は恭夜が天使……サキに与えられた家に向かっている途中

「ねえ」

「ん？何だ？」

「どうして、私を助けたの？」

空は先程から思っていた疑問……それを恭夜に聞いた

「だから、たまたま通りかかったただけだって……」

「嘘」

「……」

恭夜の言い分を嘘という一言で返す空

「恭夜は……私がこの世界の人じゃないことを知ってた……だから助けた……でしょ？」

「……はあ、分かっていたか、そうだ。俺は俺を転生させた天使に頼まれお前を探してた」

その後恭夜は自宅につくまでに空がこの世界に来た原因を話、その後は他愛のない話をした。そして自宅につき、入る前に……

「ねえ、恭夜……」

「何だ。空？」

「私と……デュエルして」

空は恭夜の目を見ながらそう言った

「そうだな……分かった。やるか」
「うん……」

二人はある程度距離を取りデュエルディスクを起動させ……

「「デュエル！！（……）」」

恭夜LP4000
空LP4000

デュエルを開始した

SIDE空

「「デュエル！！（……）」」

私と恭夜のデュエルが始まった。最初の手札は……【ヴァイロン・キューブ】【ヴァイロン・ハプト】【ヴァイロン・セグメント】【貪欲の壺】【フォトン・リード】……手札良すぎる……

「先行はやるよ」

「わかった……ドロー」

ドローしたのは【シャイン・エンジェル】……あれ？チートドロ
ーなんて持ってたっけ？

「私は【ヴァロン・ハプト】を召喚……【ヴァイロン・セグメント】
を発動して装備」

とりあえず……【ハプト】を召喚して【セグメント】を装備させる

「さらに【フォトン・リード】を発動……【ヴァイロン・キューブ】を召喚……」

「もう来るのかよ……」

分かったのかな？でも、私が召喚するのは……

「レベル4の【ハプト】にレベル3の【キューブ】をチューニング……シンクロ召喚。【ヴァイロン・デルタ】」

「【ヴァイロン・シグマ】じゃなくて【ヴァイロン・デルタ】を召喚？」

そう、私が召喚したのは【シグマ】じゃなくて【デルタ】……私のデッキは【シグマワンキル】じゃなくて【オメガ】の召喚を優先的に考えてある【ケーストループ】……でもエクシーズの登場で【ケースト1キル】でもいいと思う……今【リバイス・ドラゴン】と【ブリリアント】ないけど……代わりにオリカが入ってた

「【キューブ】と【セグメント】の効果……【ヴァイロン・エレメント】と二枚目の【セグメント】を手札に……【セグメント】を【デルタ】に装備」

これで一応、対象を取るモンスター効果と罠から【デルタ】を守れるけど……何か心配。でもふせれるのなし……元々罠カードの比率が低いんだけどね……

「ターンエンド。このとき【デルタ】の効果で【静寂のロッドーケースト1】を手札に加える」

空

LP4000

場 デルタ

伏せ なし セグメント

手札 四枚

「俺のターン！」

確か恭夜のデッキは少し見えたんだけど【次元サイキック】：
…あの中で面倒なのは【メンタルオーバー・デーモン】……長く場
に続けると除去したあとの展開力が面倒……でもあれを一ターン
で召喚するのは難しい……

「俺はフィールド魔法【脳開発研究所】を発動！」

回りがどこかの研究所の内部みたいになる……これって確かサイ
キック族の召喚権を一つ増やすんだっけ？……【緊急レポート】
あったらやばい……

「そして【静寂のサイコウィッチ】と【脳開発研究所】の効果で【
寡黙なるサイコプリスト】を召喚！そして【緊急レポート】を
発動！」

あ、出される

「【緊急レポート】の効果で【メンタルシーカー】を特殊召喚！
レベル3の【サイコウィッチ】と【サイコプリスト】に【メンタ
ルシーカー】をチューニング！こい！【メンタルオーバー・デーモ
ン】！」

一ターンで出されちゃった……それもそうだね。【次元サイキック】はサイキック族中心なんだから……【脳開発研究所】が入っててもおかしくない……【ヴァイロン・ソルジャー】に【ヴァイロン・マテリアル】を二枚装備させて攻撃しないと勝てないよ。【メンタルオーバー】に

「バトル！【メンタルオーバー・デーモン】で【ヴァイロン・デルタ】を攻撃！」

「【デルタ】……でも装備されてる【セグメント】の効果で【マテリアル】を手札に……」

これは……ちよつとまずいかも……今の私の手札のヴァイロンのモンスターがない……サーチ出来る【シャイン・エンジェル】は居るけど……次のドロークカードを見てから考えよう

「メイン2で【オーバー・デーモン】の効果で墓地の【サイコウイッチ】を除外！」

後二ターンもすればもう一体の【オーバー・デーモン】の素材が全部効果で除外されちゃう

「ターンエンドだ！」

恭夜

LP4000

場 オーバー・デーモン

伏せ なし 脳開発研究所

手札 二枚

「私のターン……」

ドローしたのは【ヴァイロン・マテルアル】……駄目か

「モンスターをセットしてターンエンド」

空

LP4000

場 セット

伏せ なし

手札 五枚

「俺のターン！【オーバー】の効果で【サイコプリスト】を除外！モンスターをセット！バトル！【メンタルオーバー】でセットモンスターを攻撃！」

私のセットモンスターは唯つ残っていた【シャイン・エンジェル】……これで【メンタルオーバー】をなんとかできる

「私のセットモンスターは【シャイン・エンジェル】……効果で【ヴァイロン・オーム】を特殊召喚」

「カードを一枚伏せてターンエンドだ」

恭夜

LP4000

場 メンタルオーバー セット

伏せ 一枚 脳開発研究所

手札 三枚

「私のターン……」

いいのを引けた

「私はチューナー【ヴァイロン・ステラ】を召喚……【マテリアル】を【オーム】に装備……そして永続魔法【ヴァイロン・エレメント】を発動」

これで準備が整った……

「レベル4【オーム】にレベル3の【ステラ】をチューニング……来て【ヴァイロン・シグマ】……【マテリアル】二枚の効果で【ヴァイロン・コンポーネイト】と【ヴァイロン・マター】を……【エレメント】の効果で【ヴァイロン・スフィア】と【ヴァイロン・テトラ】を召喚……レベル7の【シグマ】にレベル2の【テトラ】とレベル1の【スフィア】をダブルチューニング……シンクロ召喚。【ヴァイロン・オメガ】」

やっと出せた……あの場で【メンタルオーバー】が来なかったら前のターンで出せてただけだね……

「魔法カード、【食欲の壺】……【シグマ】【デルタ】【キューブ】【テトラ】【ハプト】を戻して二枚ドロ」

引けたのは【死者蘇生】とオリカ？……効果は……使い道あるかな？一応伏せところ

「カードを一枚伏せて【死者蘇生】を発動。【ヴァイロン・ハプト】を特殊召喚」

次は……何を出そうかな

『ねえ、空』

「何……カオス」

『私もだしてえ』

私の精霊、カオスが泣きそうな目……涙目で私を見つめる。男性にやったら効果抜群だと思うけど……私にしても意味ないような……でも、出してあげる

「わかった」

『やったあ』

喜んでる……見た目同様の精神年齢なのかな？

「私は【オメガ】に【ケースト】を装備……そして【マテリアル】を装備して破壊……【エレメント】の効果でデッキから【ヴァイロン・プリズム】を召喚……レベル4の【ハプト】にレベル4の【プリズム】をチューニング……来て、【ヴァイロン・カオス・ドラゴン】」

これが【オメガ】に続く私の切り札で新しい仲間……【ヴァイロン・カオス・ドラゴン】

「【カオス】の効果……墓地から【プリズム】を装備……そして」

【カオス】は口の周りに光のつぶを集め、一定以上たまったのかそれを【メンタルオーバー】に向かって放った

「くっ！？破壊効果か！」

「そう……【カオス】は装備カードを墓地に送って相手のカード一

枚を破壊する効果がある……」

「そういうことか……だがこの瞬間【メンタルオーバー】の効果発動！【サイコウィッチ】と【サイコプリースト】を特殊召喚する！」

後一ターン遅くて、恭夜のターンで墓地に送られてたら二枚目が出てきてた……危なかった

「バトル……【カオス】で【サイコウィッチ】を、【オメガ】で【サイコプリースト】を攻撃」

本当はセットモンスターを攻撃したかったけど……あの二体は効果が強力だから先に破壊しとかないといけない

「【サイコウィッチ】の効果で【サイコウィザード】を除外する！」

あれは確か召喚時に効果を発動して特殊召喚には対応してなかったはず……

「【オメガ】の効果で墓地の【スファイア】を装備してターンエンド」

空

LP4000

場 オメガ カオス

伏せ なし スファイア ケースト

手札 なし

これで一応二回だけ効果を無効にして破壊出来る……でも、恭夜はここから何かしてきそう

「俺のターン！【サイコウィッチ】の効果で【サイコウィザード】

を特殊召喚！俺は【リビングデッドの呼び声】を発動！【メンタルオーバー】を蘇生して効果を使う！」

「駄目……【オメガ】の効果で無効にして破壊……」

「【死者蘇生】を発動！【メンタルオーバー】を蘇生して効果発動！」

「今度は【スファイア】……」

まさか【メンタルオーバー】一体に二回とも使っちゃうなんて……でも効果強いし

「よし、俺はセットモンスター【サイ・ガール】を反転召喚！そして二体目を召喚！」

チューナー二体……でもダブルチューニングモンスターはいない……ってことはシンクロモンスターを経由して高レベルシンクロモンスターのシンクロ召喚が狙い

「まずはレベル4の【サイコウイザード】にレベル2の【サイ・ガール】をチューニング！こい！【サイコ・デビル】！次だ！レベル6の【サイコ・デビル】にレベル2の【サイ・ガール】をチューニング！【メンタル・デーモン・ドラゴン】！！」

やっぱり……恭夜が【メンタル・デーモン・ドラゴン】を召喚したとたんに周りに強風が吹き始めた……なにこれ……そして私の左腕には何かわからない模様が浮かび上がっていた。恭夜の方を見ると恭夜も同じだった。これは……とりあえずデュエルを早く終わらせよう

「トラップカード【機械天使の惨劇】を発動……このカードは自分フィールド上に「ヴァイロン」と名のつくシンクロモンスターが存

在し、相手がシンクロ召喚をしてきたとき発動する……フィールド上のモンスター全てを破壊して、破壊したモンスターの攻撃力分のダメージを互いのプレイヤーは受ける」

「ドロー（引き分け）専用カード!？」

フィールドの真ん中……その辺に光が集まり……はじけ飛ぶ

恭夜LP4000↓0

空LP4000↓0

私はデュエルディスクを仕舞い、すぐに恭夜の方に向かう

「ねえ、恭夜……今のは」

「ああ、5D、sの赤き竜のシグナーみたいな痣が浮かび上がったが……」

なんでだろう……

「とりあえず、このことについては後で考えるとして……まさかあそこでドロー（引き分け）専用みたいなカードを使うとは思わなかったぞ」

まあ、あれは引き分けしかできないと思う……あ、あの満足な人ならこっちの負けだ

「でも……一人だけ勝てる人……いる」

「?……ああ、いたな。とりあえず家の中に入るか」

「うん……」

私は恭夜に連れられて、家の中に入った。結構広い……

その後、どうするか話あって、私は恭夜の家と一緒に住まわせてもらうことにした……

そして恭夜の家に住み始めて数ヶ月……最近の私は変だ

恭夜の顔を見るだけで顔が赤くなるのがわかる……それでいてもつと恭夜と一緒にいたいとも思っている

これが…恋……なのかな？

S I D E O U T

第二話 恭夜VS空（後書き）

ユ..毎回恒例の後書きコーナーの時間だ。ふわぁ.....眠い

空..こんな時間まで書いてるから.....

ユ..書き上げたかった.....それだけ

恭..作者が結構眠たそうだからさっさと終わらせるか

空..うん.....まずはこれ

機械天使の惨劇

通常罾

このカードは自分フィールド上に「ヴァイロン」と名のつくシンクロモンスターが存在し、相手がシンクロ召喚をしてきたとき発動できる

フィールド上のモンスター全てを破壊して、破壊したモンスターの攻撃力分のダメージを互いのプレイヤーは受ける

恭..完全引き分け専用カードだな

空..でも.....あの満足な人には勝てない

ユ..だな、次は空の切り札のこれ

ヴァイロン・カオス・ドラゴン

星8／光／ドラゴン族／攻2800／守2300／シンクロ／効果チューナー＋チューナー以外のモンスター一体以上

一ターンに一度、墓地に存在するカードを一枚選択してこのカードに装備カード扱いで装備することができる

このカードに装備されているカードを一枚墓地に送ることで相手フイールド上のカード一枚を選択して破壊する

この時、墓地に送られることによって発動するカード効果は発動しない

このカードが破壊されるとき墓地に存在する「ヴァイロン」と名のつくカードを一枚除外することで破壊を無効にする

この効果は一ターンに一度しか発動できない

空…【ヴァイロン・エプシロン】の上位互換な効果だよ

恭…墓地のカードを装備カード扱いで装備できる効果にそれをコストに相手カードを一枚破壊する効果、さらには破壊耐性ときた

ユ…変更点は破壊耐性に制限を付けたくらい

第三話 伝わる想い そして……（前書き）

今回の内容は修正前の話を少し修正しただけです
俺のこんな話をもう一度一から作ることとは不可能！

第三話 伝わる想い そして……

SIDE空

どうしよう…

「どうした？空？」

「な、何でもない…」

ううー、最近恭夜の顔をまともに見れない……私が恭夜に抱いている気持ちを理解してからずっとこうだ……やっぱもう告白したほうがいいかな……うん、そうしよう

「ね、ねえ、恭夜……」

「何だ？」

「少し一緒に出かけて欲しいんだけど……いいかな？」

「そうだな……暇だしいいぞ」

やった……これで、後は機会を見て……

「（空が喜んでるが……どうしたんだ？）」

「そじゃあ……行こう」

「嗚呼」

そう言えばどこ行くか決めてなかった……何処行こうかな？

SIDE空

SIDE恭夜

空と出かけ始め数十分がたった。

今俺たちがいるのは近くにあるデパートのなかにあるゲームセンターにいる

そこで

「あ……」

クレーンゲームをしているんだが……空が猫のぬいぐるみを取ろうとしているんだが、なかなか取れないで居た。そう言えば昔あいつもこれにチャレンジして俺が毎回とっていたな……てかクレーンゲームはあっちからしたら貯金箱だし、俺もあんまりやってなかったんだよな……毎回懲りずにやり続けるためにこういうのが少し得意になっちまったが……

「ちょっと貸して見ろ」

「うん……」

さてと……あれが一番とり易そうだな

俺は一番採りやすそうなのに狙いを定めて、百円を機械の投入口にいれ、アームを動かし始める。

「すごい……」

そしてそれを一発でとった俺に対して、空は驚いた顔をしていた。結構アームの力が強いな……こっちだと強めにセットされてるのか？

「ほらよ」

「ありがとう……なんでそんなにも上手なの？」

「ん？転生する前に友達とか妹にとってくれと何度も頼まれて回数をこなしたらな」

本当に、あいつ等が何度も何度もやってくれって頼まれたものだ

「あ……ごめん」

空がいきなり謝ってきた。最初はなんでもかと思っただが少し考え理由が分かった

「いいんだよ。別に」

「でも……」

はあ

「確かにあいつらや妹の事は心配だ。だがもう過ぎちゃったことだ。」

今だって妹の事を考えたりもしている。あいつにも結構友達がいるが俺が死んで物凄く悲しんでるだろうな……今度サキにあっちの事でも聞いとくか

「この話はこれで終了だ。腹減ってないか？」

「え？あ、うん。少しだけ」

えっと時間は……12時ちょい前か

「んじゃ昼でも食いに行くか」

「うん」

空が微笑む……俺は少しの間空に見とれていた

「どうしたの？」

「なんでもない……」

絶対今俺、顔真っ赤だな。てか、何で空の微笑みで顔真っ赤にしてるんだ？ 転生前の女友達にはなんとも思わなかったのにな……とりあえず昼飯だ。

それから、俺たちは昼を食ってデパートを後にした

「さて、何処行くか」

「私、一箇所だけ行きたい所あるんだけど……いいかな？」

「ん、わかった」

空が行きたい場所って何処だろう？ とりあえず俺は空について行っただ。そして着いた場所は……町から少し離れた開けた場所だった

「ここは……」

「ここ……静かだから、結構好きな場所」

確かに、ここは町からちょっと離れているし。見晴らしもいいが人はあまりいない。そういえば空は静かな場所が好きだったな

「それで……えっと、恭夜に一つ聞いて欲しいことがあるの」

空が俺の方を向く。顔を少し赤く染めて上目使いで俺を見つめる
空……やばい、物凄く可愛い

「えっと……私、恭夜のことを……その……好きなの」

え……空が、俺のことを……好き？

「えっと……本当か？」

「うん」

空が顔を真っ赤にし顔を下げる……そして今俺は物凄くドキドキしてる……ここ最近そうだ。空が笑った顔や笑顔を見るとドキドキする。これが恋か？だとすると

「俺も……」

「え？」

「俺も……空の事が好きだ」

俺は空に返事を返す。ああ、絶対に今、顔真っ赤だ……く、結構恥ずかしいな

「本当に？」

「こんなときに嘘は言わないな……」

「えっと……じゃあ、ちょっと目を閉じて屈んで欲しいんだけど」

俺は空に言われたとおり目を閉じ屈んだ……そして唇に何か当たってる感触がして目を開けると

「ん……」

空の顔が目の前にあった
え？キス……されてる？

「ん……」

そして……体感で五分——実際はそうもたっていないだろうが俺にはそれくらいの長さを感じた——経ち、空が離れていった

「どうだった？」

「あ、ああ。その、良かった」

「そう…」

駄目だ。まともに空の顔も見れない…

「そろそろ……帰ろう？」

空に言われ、そして手を握ってきた

「そうだな……」

俺は空と手を繋ぎながら帰った

そして一週間が過ぎた

「ん……ふぁ〜」

朝起きると横には空が居る。空が告白し、俺が返事を返してから一緒に寝るようになった。最初は恥ずかしさでまともに眠れなかったが

「空、朝だから起きろ」

「ん…」

そして毎朝、俺が空を起こすのも定番になってきている。空は朝が極端に弱く、暫くしないと一人では殆ど何も出来ないで居た

「さっさと朝飯食うぞ」

「うん……」

寝ぼけて目を擦る空……やば、可愛すぎる……

「恭夜？」

「なんでもない……」

さっさと朝飯食うか……

そう思い、俺は空と一緒にリビングに移動する。すると机の上に一つのデッキと一枚の紙が置いてあった

「デッキ？」

「だな。えっと、何を書いてあるんだ？」

俺は紙を手に取りその内容を読む

「……………」

「恭夜？」

はは……仕事が遅いな、サキ

「やっとか……」

「やっとなって？」

ああ、空は知らなかったな

「俺の二つ目のデッキだよ」

「二つ目のデッキがあったんだ……」

まあ、二つ目のデッキは前世で偶然全種揃って愛着がわいて作ったデッキなんだけどな……勝率は7…3で負けの方が多かった

そして俺はそのデッキに手を伸ばし……触れた瞬間

「な!？」

「!？」

急にデッキが光り出した。これはシオンが出てきたときと同じ! けど何か違う……なんだこれ、体から力が……抜ける

「恭夜！」

そして俺が最後に見たのは泣きそうな顔をして俺に近寄ってくる空の姿だった。そこで俺の意識は途絶えた

第四話 地縛神との出会い（前書き）

またまたデュエルなし。何時デュエル書けるかなあ……って思った
り

第四話 地縛神との出会い

SIDE 恭夜

く……ここは……

俺は目を覚まし、回りを見渡すと見知らぬ場所にいた

おかしい……さっきまで家にいたはずなのに……あのデッキに触れた瞬間に意識を失って気づいたらこの場所に……ち、一体に何が起こっているんだ。しかも周りには七つの石版があって目の前には一つの祭壇がある。その祭壇の最上部にも一つの石版が置かれていた。しかも石版に書かれている絵はナスカの地上絵に似ているし……だけど一つだけ、祭壇の最上部の石版だけ羽みたいなのを四本はやした女性の姿だった

「やっと、目を覚ましたか」

「誰だ！」

俺は声のした方。つまり真後ろを向くとそこには、顔に何かの線が付いている男性が三人に女性が二人、少女が二人「僕は男だあ！」……訂正一人に男の子が一人いた

「あんたら……一体何者だ」

俺は少し警戒しながら話しかける

「えー、私たちのこと知らないのー」

「仕方ないだろ、リン。私たちがこいつと会うのは初めてなんだから」

な、なんだこいつら。自分たちは俺の事知っている風に話してやる

「どうしたものか……」

「どうしたものかって言われてもだな……」

「ヒントを与えるのはどうかしら？」

こいつら……自分から言うって考えは無いのかよ

「そうだな。ヒントはこの周りに置かれている石版だ」

は？石版がヒント？

「言っている意味がわからない」

「はぁ……その石版には何が書かれている？」

書かれているのはナスカの地上絵……ん？地上絵？確か俺がここに来る前に触れたデッキの中身は……まさか

「まさか、お前ら……俺のデッキの地縛神……なのか？」

「そうだ。俺たちは地縛神の精霊だ」

当たってたのか……

「それでは、自己紹介と行きますか。私は【地縛神 U r u】の精霊だ。ウルとでも呼んでくれ」

最初に話したのは坊主でこの中では一番身長の高い男……【地縛神 U r u】のウルからだった

「次は俺か？俺は【地縛神 C u s i l l u】の精霊だ。名前はシ
アんだ」

次に髪の色が黒が混ざったような黄色の男……【地縛神 C u s
i l l u】のシアン

「次は私か？【地縛神 A s l l a p i s c u】のクオンだ。よ
ろしく」

次に黒みがかった白の髪の女性……【地縛神 A s l l a
p i s c u】のクオン

「次は私ね。【地縛神 C c a r a y h u a】のイリアよ。よろし
くね」

次は黒みがかった緑色の髪の女性……【地縛神 C c a r a
y h u a】のイリア

「次は俺だな。【地縛神 C c a p a c A o u】のキリだ」

その次は髪の色は俺と同じ黒色の男性……【地縛神 C c a p a
c A o u】のキリ

「次は僕だね。僕は【地縛神 C h a c u C h a l l h u a】の
ルアだよ！そして男だからね！」

次に黒みがかった蒼色の髪を腰まで伸ばした男……【地縛神 C
h a c u C h a l l h u a】のルア。どこからどう見ても女とし
か見えないぞ？まあ、俺も人の事言わずらいが……

「やっとだね！私は【地縛神 W i r a q o c h a R a s c a】のリンだよ！お兄ちゃん！」

黒みがかった桃色の髪を腰位まで伸ばした少女……見た目完全小学生低学年だが【地縛神 W i r a q o c h a R a s c a】のリンだ。てかお兄ちゃんって……

「あれ？あいつはどこにいるんだ？」

あいつ？地縛神は全部で七体のハズだろ？

「また、寝てるんでしょ？」

「はあ……姉さんは何時もマイペース過ぎ、ちょっと起こしてくる」「おう」

クオンはそう言い、祭壇を登っていく。姉さん？

「なあ」

「どうした、恭夜」

「お前らがいうあいつって」

「ああ、あいつは「きゃあああ」……起きたな」

キリが顔を祭壇のほうに向けたので俺もそちらの方を向くとそこには二対四枚の白色の羽をはやした女性がクオンに引きずられていた。痛そうだなあ……

「うゝ、クオンちゃん、痛いよゝ」

「五月蠅い。全く……みんなで決めたのになんで寝てるの」「眠たかったから？」

そんな会話を聴いてる中俺は

「なあ」

「何だ」

「マイペースだな」

「ああマイペース過ぎてこっちが迷惑する時もあるが……」

その時のキリの顔を疲れきったような、表現しづらい表情だった。
何をした、いったい

「ううゝ、痛いゝ」

まあ、階段をほとんど引きずられた同然に降りてきたからな……
それで痛いので済みも精霊で神であるこいつらだからか

「あゝ、お前は？」

「私は【究極地縛神ルシフェル】のルシフェルだよ。これからよろ
しくね恭ちゃん！」

ちゃ、ちゃんづけ……

「ルシフェル……」

「何？恭ちゃん？」

「ちゃん付はやめてくれ、これでも男だから」

「ええゝ」

この後、ルシフェルにちゃん付をやめてもらうために軽く一時間は説得した。それでなんとか恭夜と読んで貰えるようになった。本当にちゃん付はやめてくれ……

その後、少し気になること……地縛神の本質……闇の力等々を聞

いた

どうやらこいつらはそのへんの力がないらしい。それなら安心だな

「それじゃあ、そろそろ恭夜を元の世界に返すね」

「ああ、頼む」

「それじゃあ、また向こうの世界でな」

「お前らも早くこいよ」

俺は最後にそう言って意識が無くなった

「……………ここは」

俺が目覚めると見慣れた天井……………現実世界の俺の家の天井が見えた

どうやら戻れたようだな

「ふう……………ん？」

俺は扉が開く音が聞こえ、そっちを向くとそこには空が居て

「きょ……………うや？」

「心配かけたな。空」

「恭夜ああ！」

空はその場から走り出し俺に抱きつき泣いた

「ぐす……………恭夜……………心配した」

「ごめん。空」

ああ、後であいつらに少し説教でもしないと……………その前に、空

にこれから増えるあいつらのこと、説明しないとな

第五話 本来居なき者（前書き）

久しぶりのデュエルう……そしてそろそろ未来編（というか大体二話〜三話前後で）に行ける……因みにもう15話までの内容は決ま
ってたりします！

第五話 本来居なき者

ある一日、それが今までの生活との別れであり、そして、新たな生活の始まりであった

S I D E 恭夜

最近地縛神達が誰かに見られていると言うことが多くなってきた
いた

俺たちには何も見えないし、それは家の中でもあると言ってきた。
なんなんだ？

「ねえ、恭夜……」

「どうした、空？」

「私も最近……誰かに見られているような気がするの……」

空もか？ てか空を見ている奴はとりあえず地縛神のダイレクトア
タックだな

そう言えば……

「ここってこんなにも人通りが少なかったか？」

「……確かに、何時もはもっと、賑やかとか言えないけど……人は
多かったはず」

俺たちがいる場所は昼間は人通りがある程度出来る場所だが……
今は人っ子一人いない。そして精霊達は周りに人の気配がしないと
いっている……何が起きているんだ

『……！？ 恭夜！ 気を付けて』

いつの間にか俺の隣に現れたルシフェルが俺に何かを注意する。
ルシフェルは何時もはマイペースだがこう言う時はきちんとする。
それが分かつてる俺と空は回りを警戒する

「……」

『……！ 恭夜、空ちゃん！』

ルシフェルは実体化して俺たちを両手で抱えて下がった。どうしたんだ！？

すると今まで俺たちが到場所には何かがあたって

「黒羽恭夜！ 紅葉空！ それとその女！ お前たちが持っているロストロギアを渡せ！」

そして上空から声が聞こえ、そっちを見ると男が一人飛んでいてそれにロストロギアだと？ 確かあれはリリカルなのは（友人に無理やり見させられた。キャラとかはほとんど覚えていないが少しだけ単語と世界観を覚えている程度だ）に出てくる物のはずだ……なんでこの世界に

「おい！ 聞いているのか！」

「うるさいな。誰が見ず知らずの奴に何かを渡さないといけないんだ。一応聞くがお前たちが欲しいのは何だ」

「とぼけるな！ オメエたちが持っているカードだ！」

カードだと？……地縛神かちょっと謎があるシオンのカードか？

「渡さないって……言ったら？」

「お前たちをロストロギア不法所持で逮捕する！」

……この世界は管理世界か？わからんがこの世界で次元世界とか聞いたことがないというか普通の世界だから多分この世界は管理外世界だろうな。

「ち……それでも渡さないみたいだな……ならこれでどうだ！」

男の腕にいつの間にかデュエルディスクが表れ、男が何かボタンを押すと俺のデュエルディスクが勝手に起動した

「何!？」

「俺が買ったらお前らのロストログアをいただく！」

「勝手なこと言ってるんじゃないやねえよ！」

「もし、お前がこのデュエルに逃げたらそっちの二人の女を貰っていくがな！」

「!？」

こいつ……今なんて言った……ルシフェルを……空を貰うだと？……ぶっ潰す！

「いいぜ……」

「そうこなくっちゃな」

「「デュエル!!」」

さっさとこんな変な奴とのデュエルを終わらせる！

「先行は貰う！ドロー！」

今回は【サイキック・ドロー】【静寂のサイコウィッチ】【ブレインハザード】【パスト・イメージ】【フューチャー・グロウ】

魔宮の賄賂】。く……モンスターが一枚しか来てない！

こんな時に限ってこれはまずい……

「俺はモンスターとカードを二枚伏せてターンエンド！」

恭夜

LP4000

場 セット

伏せ 二枚

手札 三枚

とりあえずは時間を稼いでモンスターを引かないと！

「俺のターン！へへへ【Tour Guide from the Underworld】を召喚！」

男がニヤついたと思ったら赤髪に髑髏マークのついたカバンを持ったモンスターを出してきた

まずい！あいつの効果は確か！？

「【Tour Guide from the Underworld】のモンスター効果！こいつの召喚に成功したとき、デッキ又は手札からレベル3の悪魔族モンスター一体を特殊召喚出来る！俺は【クリッター】を特殊召喚！」

【Tour Guide from the Underworld】の後ろのバスから【クリッター】が降りてくる。ち……あいつはシンクロ素材にできない効果があるがエクシーズ召喚には使用できる……

「恭夜……」

「心配するな」

俺は一度空の方を向き、一言かける、そして再び男の方を向くと男の視線が俺ではなくて【Tour Guide from the Underworld】に注がれていた。何してるんだ？

俺は男の目元を見るとなんて言ったらいいか……あまり言いたくないがいやらしい目で【Tour Guide from the Underworld】を見ていた。こいつに使われている女性型モンスターには同情するわ……

というか【Tour Guide from the Underworld】が困ったような顔をしているが……精霊か？

「行くぜ！レベル3の【Tour Guide from the Underworld】と【クリッター】でオーバーレイ！」

【Tour Guide from the Underworld】と【クリッター】が光の珠となり男の目の前に出来た黒色の穴に吸い込まれる

「二体のモンスターでオーバーレイネットワークを構築！エクシーズ召喚！」

そしてそこから出てきたのは円形状でそこから幾つもの管みたいなのが出ているエクシーズモンスター……まさかこいつわ！

「現れろ！No. 30！すべてをその忌まわしき力で溶かしつくせ！【破滅のアシッド・ゴーレム】！」

男の足首に30という番号が浮き出て、そして球体が人型を形作

り管はなくなり、管があった場所からは液体が漏れ出てきていたく……【リバイス】じゃなくてこいつかよ！

「バトル！【No. 30 破滅のアシッド・ゴーレム】でセットモンスターを攻撃！」

【アシッド・ゴーレム】は腕を振り上げると振り下ろし、俺のセツトモンスター【静寂のサイコウィッチ】を破壊していった

「だがこの瞬間【静寂のサイコウィッチ】の効果が発動する！俺はデッキから【サイキ・ガール】をゲームから除外する！」

「まだだあ！速攻魔法【破滅の追撃】を発動！」

オリカか！

「こいつは自分場にモンスターエクシーズが一枚のみでそのモンスターが攻撃を行なったバトルフェイズに発動できる！そのモンスターのオーバレイユニットを全て取り除きこのターン、選択したモンスターの効果を無効にすることでもう一度攻撃することができる！」

発動条件が厳しくモンスターエクシーズにしか使用できない複数回攻撃を可能にするカード！？

「させるか！カウンタートラップ【魔宮の賄賂】を発動！」
「な！？」

「【賄賂】の効果で【破滅の追撃】を無効にする！」

相手の場に現れていた【破滅の追撃】のカードは粉々に砕け散った
【アシッド・ゴーレム】のオーバレイユニットが戻ってないこ

とを見ると取り除く効果はコストか……だがこれはこっちが有利だ。
【アシッド・ゴーレム】は自分スタンバイフェイズにオーバーレイ
ユニットを取り除くか2000のダメージを受けるかどちらかを行
わなければいけないカード。そして特殊召喚ができず攻撃できない
効果がある

「くそ！カードを一枚伏せてターンエンド！」

男

LP4000

場 アシッド・ゴーレム

伏せ 一枚

手札 三枚

「俺のターン！このスタンバイフェイズに【サイ・ガール】は特殊
召喚される！」

【サイ・ガール】を出すことができたが手札のモンスターはゼロ。
今引いたのは【強欲な壺】……かけるか

「魔法カード【強欲の壺】を発動！」

俺はカードを二枚引き、それを確認する。よし！

「さらに魔法カード【サイキック・ドロー】を発動！手札の【サイ
キック・リチュナー】を除外して二枚ドロー！」

これである程度の準備が整った……俺が除外した【サイキック・
リチュナー】は墓地又は除外ゾーンに存在するとき、自分フィー
ルド上に存在するレベル5以上のサイキック族モンスターのレベル

を任意の数下げてこのカードを特殊召喚し、下げたレベルと同じレベルになるモンスターだ。ただ一ターンに一度しか発動できないが

「俺は【寡黙なるサイコプリースト】を召喚！」

後は……場にモンスターを並べる準備をするだけ！

「【サイコプリースト】の効果により俺は手札の【フューチャー・グロウ】を捨てて【静寂のサイコウィッチ】を除外する！これでターンエンドだ！」

恭夜

LP4000

場 サイコプリースト サイ・ガール

伏せ 一枚

手札 三枚

「くそ！俺のターン！」

相手のターンが始まると同時に【アシッド・ゴーレム】は拳を振り下ろし、相手の男に攻撃する

「くううう……この役たたずが！」

男LP4000↓2000

役たたず……だと

「おい、自分で使ってるカードに役たたずとか言うな」

「はぁ？何もせず俺にダメージを与えるカードを役たたずと言って

何が悪い」

ここまでカードを大事にしない奴がいるなんてな……

「俺は【アシッド・ゴレム】をコストに【エクシーズ・フォース】を発動！俺は手札からこのカードの発動時に墓地に送ったモンスターのエクシーズのランク以下又はランクより一つだけ上のレベルを持つモンスターを二体特殊召喚する！俺は【ガガマジシャン】【ガガガール】を特殊召喚！」

まじか……あの二体が出たってことはランク1から8までのエクシーズ召喚が可能になったってことか……

「【ガガマジシャン】の効果！レベルは5！【ガガガール】も効果でレベル5になる！レベル5になった【ガガガール】と【ガガマジシャン】でオーバーレイネットワークを構築！」

再び光の珠が表れ渦の中に吸い込まれていった

「エクシーズ召喚！現れろ！【NO. 61 ヴォルカザウルス】！」

今度は左肩に61の数字が表れ出ていたのは火山を思わう龍……【ヴォルカザウルス】だ。また面倒なモンスターが出てきたな……だが俺の場には攻撃力が低いモンスターしかない……これなら効果も使ってこないだろう

「そして最後だぁ！魔法カード【サンダーボルト】！」

「何！？」

「禁止……」

「犯罪者に禁止制限もねえよ！」

管理局とかいう組織の連中は全員こんな奴らばっかか！

「だが【サイコプリスト】の効果で【サイコウィッチ】は場に残る！」

「ち……そいつの効果을忘れていたぜ。バトル【ヴォルカザウルス】で【サイコウィッチ】を攻撃！」

【ヴォルカザウルス】は口にエネルギー？を溜め、それを撃ってきた

「くう……【サイコウィッチ】の効果で【メンタルシーカー】を除外！」

「ターンエンド！」

男

LP2000

場 ヴォルカザウルス

伏せ 一枚

手札 ゼロ

「俺のターン！」

ドローしたのはいいが厄介だな……【ヴォルカザウルス】はそうでもないがさっき【サンダー・ボルト】を使ってこられた……ってことはあいつのデッキには禁止カードがまだ入っているということだ……面倒なのが【ハーピィの羽根箒】当たりだが……というカードローカードは……これは……このターンで終わらせる！

「俺はリバースカード【パスト・イメージ】を発動！【ヴォルカザ

ウルス】を次のスタンバイフェイズまで除外させてもらう！」
「何イ！？」

これでオーバレイユニットは消滅……まあ、意味ないがな

「そして【メンタルプロテクター】を召喚！」

これで準備は整った！

「（へ……レベル6でブリュでも出すのか？だが俺の伏せカードは【強制脱出装置】。例え出せたとしてもすぐにエクストラデッキに返してやるよ！）」

問題はあの伏せカードが召喚反応型のカウンタートラップでなければいいが……

「行くぜ！レベル3の【メンタル・シーカー】にレベル3の【メンタルプロテクター】をチューニング！来い！【ナチュル・パルキオン】！！！」

俺が出したのはシンクロモンスターの中でフリーチェーンの除去トラップ、特に【強制脱出装置】に有利なモンスター【ナチュル・パルキオン】だ。効果自体【次元サイキック】には相性がいいしな

「【ナチュル・パルキオン】だとお！？」

あの反応からすると伏せカードはどうやら攻撃反応型のトラップかモンスター除去でスペルスピードが一のフリーチェーン辺りのトラップのようだ

「これで終わりだ！【ナチュル・パルキオン】でダイレクトアタック！」

「くそがああああ！！」

男LP2000↓0

男が吹っ飛ぶとあいつのデッキがデュエルディスクから飛び出しバラバラになる。そこから二枚のカードがこちらえ向かってき、空の手元に収まった

「これは……」

「【Tour Guide from the Underworld】……」

日本語訳で【地獄のツアーガイド】。効果はあいつが使ったようにデッキか手札からレベル3の悪魔を特殊召喚できる効果だ
そして気になっていたことだが……

「こいつは精霊なのか？」

「どうだろう……」

どう考えても不自然な軌道でこっちにきたしな……こういう時は

「シオン。何か感じるか？」

『うーん……ちょっと待って〜』

シオンに聞くことにしよう。そして数分が過ぎると

『助けてくれてありがとうございます！』

案の定精霊だった。どうやらあの変態男の視線に耐えずにデュエル時以外は精霊界の自分の家に引きこもりになっていたらしい。そこでシオンが事情を説明して、出てきてもらった

『本当、あの変態の手元から逃れられてよかった』

相当嫌だったらしい

さて、問題は……

「お前をどうするかだよなあ……」

「そうだね……」

『え！まさか私……またあの変態のデッキに入るんですか！？』

「それはないよ……」

『よかったあ……』

と言っても持っていたとしても入れるデッキなんて……ん？そう
だあいつらのデッキなら入るか

「それじゃあ……名前聞いてなかったな」

『あ、私はリアって言います』

「リアか……ありがとな、俺は黒羽恭夜だ」

「私は紅葉空……よろしく」

『よろしくです。恭夜さん、空さん』

「それでリアなんだが……俺のもう一つのデッキに入ってもらおう
と思う」

『もう一つのデッキに？』

「ああ」

俺の二つ目のデッキは地縛神……悪魔族もいるから入るんだよな

「ダメか？」

『全然！あの状態より何十倍もマシです！』

俺は【Tour Guide from the Underworld】のカードを地縛デッキのホルダーにいれ、そしてこの場所から離れようとしたら、足元に何か変な文字が書かれた物が表れ、光だった

「何だこれ！」

「恭夜！」

「空！」

俺は手を伸ばし、空の手を握ると、光が眩しくなり目をつむった……そして次に目を開けたときは見知らぬ場所だった

第五話 本来居なき者（後書き）

ユ…後書きコーナー……眠い

恭…またか……

空…何時もこんな時間に投稿するから……

ユ…仕方ないだろ……とりまオリカ説明

破滅の追撃

速攻魔法

自分場ジールド上にモンスターエクシーズが一枚のみでそのモンスターが攻撃を行なったバトルフェイズに発動できる

そのモンスターのオーバーレイユニットを全て取り除きこのターン、選択したモンスターの効果を無効にすることももう一度攻撃することができる

恭…今回変態男が使ったオリカだ

空…正直【鬼神の連撃】使えばいいと思う……

ユ…【アシッド・ゴーレム】位にしか使えないしな……

サイキック・リチューナー

星1／地／サイキック族／攻0／守0／

このカードが墓地又は除外ゾーンに存在するとき、自分フィールド上に存在するレベル5以上のサイキック族モンスターのレベルを任意の数下げてこのカードを特殊召喚し、下げたレベルと同じレベル

になるモンスターだ。

この効果は一ターンに一度しか発動できない

恭..今回使っていないが名前が出てきたから紹介だ

空..【レベル・ステイラー】みたいな効果……

ユ..でもちよつと違う部分もあるがな。眠いんで今回はここまで、
御休みなさいです

クリスマス 短編（前書き）

注意…この話には作者的に少し甘めの成分とリア充爆発しろ！的な雰囲気があったりします。その辺が嫌な方は観ないことをおすすめします

見るんですね？ではその前に少しまえがきを

とりあえずクリスマス中に更新できたああ

後最初の方に作者の謁見でクリスマスの事書いてます。因みに作者はリア充がありません。つかどうでもいい方です。なんでみんなあそこまでリア充爆発しろおお…なんて言ってるんだろうね？俺には理解できません

クリスマス 短編

12月25日。クリスマスである。この日には恋人がいる人はその人と一緒にいたり、遊んだりする日であり、恋人をもたない人にとっては憎むべき日？である

そして、ネオドミノシティにある一軒の家……ここでもその日を楽しく過ごすべく色々と考えていう人がいた

SIDE空

今日はクリスマス……恭夜と何処行こうかな……その前に何を着ていくかも決まってる……

私の部屋（というより恭夜と一緒に使ってる部屋。恭夜には先に行ってもらってる）のベットには色々服が散らばっている
本当に……どうしよう

——三十分後——

結局普段とあまり変わらない服になった……上下白の服で合わせただけ……あまり服装にこだわらなかったからこう言う日何来たらいいかわからない……

「おーい、空。準備終わったか？」

きよ、恭夜！？

「ちょ、ちょっと待って」

「ああ、わかった」

えと、とりあえず服を片付けてから……外は寒いと思うからジャケットも取り出して……

S I D E 空 O U T

S I D E 恭夜

「ちょ、ちょっと待って」

俺は空からその言葉を聞いた後、扉の横の壁を背もたれにしてその場にいる

そして上着のポケットの中から一つの小さな箱を取り出す

「……今日はこれを渡す絶好の日……だよな」

そして再び上着のポケットの中に仕舞う

「きよ、恭夜……」

「空か、もう準備は……いい……」

俺は空の姿を見て、固まった。空の服は髪の色に合う白色の服を基準にして、その上に灰色の上着を着ていた

「えっと……可笑しいところ……ある？」

「い、いや、すごく綺麗だ」

「そ、そう……」

俺たちは顔を真っ赤にして、下を向いた

「そ、それじゃあ……行こ？」
「あ、ああ」

そして空と一緒に階段を降りてクリスマスのネオドミノシティに
出向いた

S I D E 恭夜 O U T

S I D E ルシフェル

「恭夜達……大丈夫かなあ」
「ルシフェルが恭夜達が心配なのは分かった……だけどなんで私
で恭夜達の後をつけないといけないんだ！」

私はクオンちゃんと一緒に恭夜達の後について行っている。

「えー、だって恭夜達色々と厄介事に巻き込まれてるじゃん。だか
ら心配で……」

「その気持ちは分かった。でもなんで私なんだ？ シアンとか裕日と
カリアとかいるだろ」

「他のみんなは料理とかリンちゃんやシオンちゃんの世話してたり
裕日ちゃんは葵ちゃんと一緒に出かけてるしリアちゃんは悪魔族の
集まりがあるからパーティー前にしか帰ってこないし……暇なのっ
て私とクオンちゃんだけだよ？」

「確かに私は料理は出来ないけどさ……」

「あ、恭夜達が移動しちゃう。早く追いかけてなくちゃ」

「人の話を聞けえ！」

私は逃げられないようにクオンちゃんの腕を握ってから恭夜達を
追いかける

SIDEルシフェルOUT

一方ルシフェル達の尾行に気づいてない恭夜と空は……

「あ……恭夜、あれ」

「ん？ ああ……綺麗だな」

クリスマスの街風景を堪能していた。現在の時刻は五時半で回りもこの時期では暗くなってきた

「さてと、予定しているパーティーは七時からだし、ゆっくり見たいこうぜ」

「うん」

二人の目的地は町外れにある丘である（原作最終回で遊星と牛尾が話してた場所です）

そして街を見て回りながら目的の場所に到着した

「……綺麗」

「ああ、確かに、綺麗だな」

そこから見える風景は普段、夜の灯りだけでも綺麗に見える場所であるがクリスマスということもありいろんなところでイルミネーションが飾られていてさらに綺麗に見えていた

「（チャンスは……今しかないか）」

恭夜は上着のポケットから小さな箱を取り出し空の方を向く

「な、なあ、空」

「何、恭夜？」

「えっと、そのさ、デュエルアカデミアを卒業してからシグナーとダークシグナーの戦いが終わったらだな……」

「？」

空は恭夜が何を伝えたいかよく分かっていなかったが黙って恭夜の言葉を聞いていた

「俺と……結婚してくれないか？」

恭夜は右手の箱を空に差し出しながらそう言った

「え……」

対する空は顔を真っ赤にしている

「今……結婚って」

「ああ、俺は本気だ。それでだな……一応空の返事も聞きたいんだが……」

恭夜は照れ隠しか顔を背けながら空に聞く

「うん。結婚……しよ」

「ありがとな」

恭夜はそう言うのと箱からなんの装飾もされていない指輪を取り出し、空の左薬指に指輪をはめた

空は指輪がはめられた指を右手でさわる。それが嘘ではないことを何ども確認するように

「ねえ……」

「な、何だ」

「キス……して」

「それくらい何度でもしてやるよ」

そして二人の距離は少しずつ縮まり、そして0になった
暫くして、そっと離れる二人

「浮気とか……しないだよ」

「お前こそ、するなよ」

「私には恭夜だけでいい……」

「俺もだ」

そうして再び抱き合う二人。

S I D E ルシフェル

「おい、ルシフェル」

「何？クオンちゃん」

「いいのか？恭夜達を見守ってなくて」

うーん……見守っていたい気持ちもあるけど

「大丈夫だよ。それに、あんなところのぞき見出来るわけないじゃん」

「はあ？全く……お前の言ってることは偶にわからないよ」

ふふ、少しもわかってないね、クオンちゃんわ。やっぱり恭夜に出会うまで封印されていた私以外のみんながああいうのを知ってる

わけないか……それはそれで悲しいなあ……今度教えようかな？

「さあてと、リアちゃんを迎えにちょっと魔界まで行ってくるね」

「わかった。また魔轟神や暗黒界の連中と一緒に飲むなよ？」

「私だってそれくらいわかってますよお。じゃ、行ってくるね」

私は魔界までの道を作ってリアちゃんを迎えに行った

その時にレヴュアタンとかヴァルキュルスとかと一緒に飲もうって誘われたけど断ってリアちゃんを半派無理やり（あってるよ？ほんとんど酔っ払ったシルバとかゴールドとかに絡まれてたから）連れて帰った

うーん……パーティー楽しみだなあ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2997y/>

遊戯王 ～転生せし者の歩く道～ リメイク版

2011年12月25日22時53分発行